

南相馬市立病院改革プランの主なフレーム内容(平成29年度～平成32年度)

1. 新たな改革プラン策定の基本方針

1.1 前改革プランの評価(平成22年度まで)

- 市立総合病院は、平均在院日数の短縮を達成
- 市立小高病院は、入院患者1人1日あたりの入院単価が増加
- 市立2病院とも病床稼働率の低迷を課題としたものの、東日本大震災と原子力災害により経営改革の中断を余技なくされたため、平成23年度以降に検証・評価を見送った。

1.2 基本方針

- 地域医療構想との整合を図りながら相双医療圏における市立2病院の役割・機能を明確化する
- 病院経営を推進するための改善策を経営面及び運用面から設定し、実施・評価を行う
- 急性期医療から回復期・慢性期医療までを相双医療圏全体で完結する仕組みの検討を行う
- 経営責任の明確化、職員の意識改革、経費削減、収入確保などの課題解決に取り組みやすい経営形態の検討を行う

2. 南相馬市の医療を取り巻く状況【外部環境】

2.1 国及び福島県の医療政策動向

- 厚生労働省:「病床機能報告制度」を設け地域医療構想を策定し、病院の機能分化を推進
- 福島県:「福島県総合計画」「福島県医療計画」、「福島県復興計画」「福島県地域医療構想(平成28年12月頃完成予定)」等において医療提供体制の見直しを図る

2.2 地域の医療環境及び動向(相双医療圏)

- 平成27年10月1日現在111,907人で、平成22年度と比べ83,819人(42.8%)減少
- 急性期の機能を持つ病床が多い反面、急性期を経過した患者の在宅復帰へ向けた医療やリハビリテーションを行う回復期機能の病院が少ない

2.3 地域の医療環境及び動向(南相馬市)

- 総人口は、平成27年度57,733人(平成22年度の70,654人から12,921人減少)
- 年少人口・生産年齢人口は減少傾向、老年人口は平成36年まで約2万人の横這いと推計
- 1日あたり推計患者数 入院724人 外来3,623人
- 病院は7カ所のうち5カ所稼働、診療所は31カ所(許可病床数1,105床のうち、稼働病床は579床)
- 「100床あたり医師数・看護師数」「10万人あたり医師数・看護師数」は全国平均以下

2.2.8 南相馬市の医療環境における問題点と課題の整理

問題点

- 急速な人口減少と高齢化の進展
- 急性期に偏りのある病床機能
- 病床稼働率の低迷

課題

- 職員確保と病床稼働率の向上
- 急性期に偏った病床機能の再編
- 地域で不足している診療機能の強化

4. 地域医療機関アンケート調査・分析【外部環境】

- 目的 地域の医療機関と市立病院との連携の現状や市立病院に対する要望を明らかにする
- 対象 相双医療圏の病院、一般診療所
- 期間 平成28年8月から9月
- 内容 「医療機関の属性」「市立総合病院への紹介状況」「市立病院に対する要望等」

【事務局で考える市立2病院の方向性(案)】

- 共通事項
 - ・市立2病院の病床再編・ネットワーク化
 - ・地域包括ケアに対応する在宅医療サービスの充実
- 市立総合病院(現:一般病床230床)
 - ・二次救急病院としての入院看護10:1基準の確保。
 - ・地域包括ケア等に対応する病床等(回復期リハビリテーション病床、地域包括ケア病床)の創設
- 市立小高病院(現:一般病床48床、療養病床51床)
 - ・一次救急診療の医療提供体制の確立。
 - ・院外処方の確立(市内の調剤薬品提供体制の確立が不可欠)。

3. 市立総合病院及び市立小高病院の現状【内部環境】

3.2 市立総合病院の患者数の動向(入院患者数・外来患者数)

- 平成27年度入院患者数は48,522人で、平成24年度の46,702人から1,820人増加
東日本大震災以前となる平成21年度の63,728人と比較すると15,206人減少
脳神経外科、消化器科、呼吸器科は平成24年度の患者数と比較して、1,000人以上増加。内科は5,608人、リハビリテーション科は4,431人の患者が減少
- 外来患者数は74,901人で平成24年の66,865人から8,036人増加
東日本大震災以前となる平成21年度の86,059人と比較すると11,158人減少
循環器科、外科、消化器科、産婦人科、脳神経外科、呼吸器科は、平成24年度の患者数と比較して1,000人以上増加。内科、整形外科、リハビリテーション科は1,000人以上の患者が減少

3.4 市立小高病院の患者数の動向(外来患者数)

- 内科及び外科の外来診療のみ実施
- 平成27年度の診療日数は178日で、前年度の136日から42日増加
- 外来患者数は1,176人で、前年度の705人から471人増加

5. 市立総合病院及び市立小高病院の経営診断(今後の考察視点・方向性)【内部環境】

- 市立2病院の経営状況(医業収益、入外患者数・診療単価、職員数、病床稼働率、在院日数等)を同規模他自治体病院と比較
- 福島県医療計画における5疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患)及び5事業(救急医療、災害医療、へき地医療の支援、周産期医療、小児医療)の視点で需給状況を検証
- 抽出された問題点・課題の整理

6. 南相馬市立病院改革プラン

- 素案
平成28年12月(予定)
- パブリックコメント
平成29年1月(予定)
- 実施及び評価
平成29年度以降

【記載内容:複数案を提示】

- (1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化
- (2) 経営の効率化
- (3) 再編・ネットワーク化
- (4) 経営形態の見直し

【付記内容:アクションプラン】

- (1) 経営改善目標値における条件設定
- (2) 経営改善目標値に基づく将来予測(収支シミュレーション)
- (3) 財政計画